

# 洞爺湖G8サミットへの道標 —「原子力と向き合う」



写真三（左から右へ）岡崎理事長、甘利大臣、勝俣会長、佃社長

- ◇ 甘利 明氏 経済産業大臣
- ◇ 岡崎 俊雄氏 日本原子力研究開発機構 理事長
- ◇ 勝俣 恒久氏 電気事業連合会 会長
- ◇ 佃 和夫氏 三菱重工業 社長

(司会) 原子力ジャーナリスト・  
日本原子力産業協会嘱託 中 英昌

性廃棄物の処分が未解決の課題として残されており、この“出口”をきちんとさせ、発電所の運転の安全徹底を前提にすれば、これほど優れたエネルギーは他はない。例えば、在来の化石燃料の発電所を、現在の原子力発電所二基に置き換えると、我が国のCO<sub>2</sub>排出量を一%削減できるぐらい強力かつ安定的なエネルギーであり、少資源国・日本にとってみれば、継続的に燃料供給をしなくても、そのまま定格出力を出し続けることができるという意味でも極めて優れたエネルギーだ。

しかし、その原子力が未だにすっきりと認知され、これほど優れたエネルギーは他はない。例えば、在来の化石燃料の発電所を、現在の原子力発電所二基に置き換えると、我が国のCO<sub>2</sub>排出量を一%削減できるぐらい強力かつ安定的なエネルギーであり、少資源国・日本にとってみれば、継続的に燃料供給をしなくても、そのまま定格出力を出し続けることができるという意味でも極めて優れたエネルギーだ。

そこで、今年七月の洞爺湖G8サミットに向けたどのような道筋を描いていくかが重要になる。昨年十二月にパリ島で開催されたCOP13におけるポスト京都議定書の議論では、京都議定書から途中離脱していた米国やCO<sub>2</sub>削減義務を負っていな中国、インドなど、世界のCO<sub>2</sub>主要排出国の全員参加が決まった。排出削減の数値目標設定では合意に至らなかつたが、まずは「全員参加」が最大の課題だったので、この

# 新春特別座談会

世界同時発展を可能に  
温暖化防止・エネルギー安保を両立

地球温暖化対策が焦眉の急となり、原油高騰時代・第3次石油危機さえ懸念される中、二〇〇八年の幕が開いた。昨年十一月にインドネシアで開催された国連気候変動会議では、二〇一三年以降のポスト京都議定書の協議に向けた「**哥本哈根議定書**」が採択され、いよいよ温暖化ガスの具体的な削減方策・進の方を本格的に議論する動きがスタート台に立った。そして、今年は日本が議長国となり国際政治のイニシアチブを握る洞爺湖G8サミットが七月に開かれ、日本の指導力が問われる。とりわけ、温暖化防止とエネルギー安全保障の切り札で、基幹電源として必要不可欠の原子力発電をどう位置付けるかが焦点の一つ。そこで各界トップの方々に参加いただき、未だわだかまりの色濃い「原子力」と向き合い、世界的潮流、役割、課題等を検証した。（文中敬称略）

## ① 地球温暖化 防止と原子力の 役割・位置付け

A portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a black pinstripe suit jacket over a white shirt and a dark tie with white polka dots. He is looking slightly to his left with a neutral expression. The background is a plain, light-colored wall.

# 新時代の幕開け

設備利用率がなかなか上がらない実態にある。私ども事業者が、何よりもまず安全を確保し、安定運転を継続していくことが前提になるが、この原子力の利用率をいかに上げていくかというのは、地球環境問題への対応においてもたいへん重要な課題だ。



# 新春特別座談会

原 原子力発電国  
規の原子力発  
計画が進まな  
かった米国  
が、昨今の国  
際状況の中で  
改めて原子力  
発電を基軸工  
ネルギーとし  
て位置づけ新  
たな建設に取  
り組んでいく  
う、それに加  
えて国際的に  
も原子力発電  
の供給に対し

ブで日本が米国のGNEPにいち早く参加の意を表明したこととは、実は米国でもたいへんたる評価を受けている。なぜなら、日本の原子力政策と米国のGNEPの目標どことこの間がまさに軌を同じくしているため、われわれの目標どことこの間がまったく同じだから、それに協力していくことには当然の方向であり、私ども原子力の研究開発機関においても米国との関係機関との協力関係が非常に深まってきていた。

トもGNEPに直接参じて、足している立場から何か足していたいた上で、米国の三十年ぶりと言える「原子カルネサンク」の実感、展望について話してください。

発空い一を「受へよう」と「わ」、補加



司会 それでは岡崎理事長、米国はGNEPでわれわれがあまり気付かないうちに燃料使い捨てるのワシスルー政策から核燃料サイクル路線に転換したが、さらに最近は三十年ぶりの原発新規建設により比重が移っていくとも聞く。GZEPに直接参画している立場から、どのように見ておられますか。

岡崎 原子力・エネルギー分野および国際的な外交政策において日米協力が基軸になるのは当然で、これまで日本が原子力分野で安定した地位を築いてこられたのも日米協力あってのことだ。とりわけ、GNEPとの関係が今後、日本の原子力国際展開においてたいへん重要な役割を担つていることは間違ひなかろ

て米国が積極的な役割を果たしていく、というのが一つの大きな流れだ。もう一つは使用済み燃料の管理・高レベル廃棄物処分の問題から、米国が改めて三十年ぶりにいわゆるリサイクル路線に復帰したことだ。

ただし、このGNEPは二〇〇六年にアッショード統領のもとで政策発表されたもので、その後の米国議会の状況、あるいは今年の大統領選挙を控えたさまざまな政治状況の下で多くの議論がなされていることは承知している。ただ私は、時間軸上でどのようなスピードでGNEPに取り組んでいくかの幅は出てくるかもしれないが、基本的には今申し上げた二つの路線が恐らく米国において堅持されるだろうと見ていい

特にわれわれは、GEP基本路線後者で、  
来のFBRリサイクル  
向けこれまで長年に  
たって蓄積してきた  
技術、経験をぜひGNE  
の中に生かしていける  
うに努力していくこと  
強く求められているし  
われわれの計画実現の  
めにもたいへん大事な  
画だという位置づけだ  
ぜひこの方向に沿つて  
米ができる限り協力す  
と同時に、これまで日  
とフランスが一緒に取  
組んできたリサイクル  
線の経験と協力の枠組  
をうまく生かしながら  
日本仏という原子力先  
三国の協力関係を築い  
いくことが、将来の世  
の原子力平和利用を安  
したものにしていくた  
のたいへん重要な試金

# G N E P 構想は国際協力・連帯のシンボル

## GNEP構想は国際協力・連帯のシンボル

が選定された。したがつて、当社は日本原燃、仏アレバ社と共同でGNEPに参画しているが、我々提案は日本の基本技術である「もんじゅ」をベテュとした技術で、アレバ社の再処理技術をカップルさせたもの。我々はベーカーとして、国および原子力機構のサポートを得ながら、「もんじゅ」をベースにした日本のFRが世界標準炉になるようにがんばっていきたく思う。特に技術的な面から見れば、先ほど岡崎さんからお話をあつたように、世界で日本とランクスが群を抜いていると考えている。また、甘利大臣からご指摘があつたように、技術のグローバル展開にあたっては世界の核不拡散にも配慮して、はじめ広く一般の方々の活動の場が大きく広がっていくと思う。

は、次の三番目の議題について  
つながるかと思います。  
日本は今、甘利大臣を先頭に「原子力立国計画」を掲げて、その着実な冒頭化に取り組んでおられるが、地震とか廃棄物処理問題等でのこの政策がどうなるようないか、まずはそこからお話しいただきたい。

領選の年だが、甘利大臣はこうした政権交代によって原子力政策の不安定さについてどうお考えか。

甘利 豪州は、ウラン資源を自国では使わないが、他国が使うのは結構ですという不思議な選択をした。ただ、最初のテーマと少し関わってくるが、原子力が地球の気候変動に果たす役割の認識が少しずつ広がりつゝあり、この広がりと同時に、各國政権も自国の温暖化防止対策義務を達成していくにかなればならぬ。これからどういう枠組みができるか、ポスト京都議定書については、これから二年間かけて決めるわけだが、そういう中でも自国がそれぞの責

## ③国家戦略・ビジネスとしての原子力

イクルを含めて推進していくことだ。確かに中津地震は想定を超えるの直下型とも言えるような地震に見舞われても、日本の原子炉は基本的安全の三要素、「止める」「冷やす」「閉じ込め」がしっかりと機能し、全が確保されたことは、IAEAも柏崎刈羽原力発電所の調査に来て明している。また、今の中の三倍のエネルギーの震に見舞われても、安全の三要素はしっかりと

務をじう果たしていく。  
という中で原子力とい  
るものを見据えなければ  
らないだろう。現実に  
子力発電所を導入する  
とによってCO<sub>2</sub>排出量が  
幅に削減されるのは事  
実であり、今は少なくと  
各国は核不拡散等の義  
の下で導入する権利を  
するわけなので、原子  
利用国の温暖化対策の  
り組みを見て、この強  
なツールが使えるなら  
いたいという選択はど  
ん広がっていく。

が来日するとき、「日本の原発施設の安全性が確認された事態でもある」ということを説明している。安全が大前提の原子力推進だから、日本のみならず、造るときの安全性とオペレーションの安全性の両方について、世界が日本の知見を共有するということだが大事なので、私は日本でいろいろな事象が起きたときに、IAEAと密接に連絡をとり、世界中の安全に関する情報を世界の原発推進国が共有するといつ

での協力・支援への期待がことほか強いようだが、どのように受け止めをおられますか。

勝俣 特に途上国等の場合は、甘利大臣ご指摘のように一つは核不拡散の国際的な枠組みがしっかりしていなくてはいけない。また、「二国間の例えば原子力協力協定のような条件整備ができる」とがまず基本になる。その上でどうしていくかだが、原子力安全問題については、日本の場合はバルブ経済崩壊後も、細々ながら途切れることがなく、原子力発電所の新規建設を継続してきたことが関係する。そうした実経験の積み重ねやノウハウは極めて大事だし、コスト確保されるという実験結果もある。

原子力を国家戦略の主軸に据え核不拡散問題さえ、フランスもサルコジ大統領主導で、原子力のワントップ・ショット・統合国策会社設立を意図、世界市場で原子力ビジネス外交に余念がない。日本の官民一体体制の強化も含め、甘利大臣はどのようにお考えですか。

甘利 日本は、今までは官民一体となつた明確な体制がなかなか打ち出せず、民間事業者の努力に期待するという形が続

いても空き地がある。そこで「全」に供給する。進はなかばに給しての理窟といふ。つまり、体とレポートして官僚といふことが必要

管理の正確さとか品質の高さにつながり世界各国から非常に評価され、日本の大手電力会社である三重電気ホールディングスが今、国際的原子力産業再編を主導、ビジネスの国際展開でも実績を上げつつある」とかと思う。こうした背景の下で、私どもがこれから原子力分野で国際協力・貢献していくには、国とメーカーさんと電力会社、このところが一致協力しながら展開していくことがたいへん大事だと考える。これは先進国の例だが、米国でABWR(改良沸騰水型軽水炉)の建設・運転一体認可を申請した会社に、東京電力もコンサルティング契約を結び、運転ノウハウ等々で支援する立場だ。まさに、今はいくつも準備、契約が進んでいます。

# 新春特別座談会

GNEPでは、  
束として積極的  
くといふ方  
早く打ち出され  
た。ウランは  
今までほ  
八十数年しか  
持たない、そ  
うすると、次  
のステップに  
早く入り込ま  
なければいけ  
ない。それは  
FBRだ。す  
ると、FBR  
を使うために  
はプルトニウ

た点を考えいく上で日本の政策は当を得たものであるし、メーカーとしても全面的に賛同している。三菱重工は今、アレバ社と連携、協力していくが、これは、世界の協力の枠組みの一つとしてメーカーとしても取り組んでいるところである。

その上で、日本のメーカーの強みは何かといえば、先ほどからお話が出ているように、「空白の三十年間」の中で、きちんと国の政策および電力会

得るための手段として世界中でお使いいただきたい。そういう意味で、私は世界のマーケットで日本が評価されていると考えており、また、その信頼に十分に応えるようにこれからも努力していきたい。

りを生かした産業力といふものを世界の原子力発展に役立てていいこというふう、まさに「原子力エネルギー」と「サムライ精神」を日本が支えていくという、たいへん大事な時期を迎えているということだろうと私は思う。

ただし、将来も安定して日本がこの技術力を維持していくためには、先進的な原子力開発の技術力を獲得していくかなくてはならないということだが、大事な視点であろう。実は、われわれ研究開発に

A photograph of two elderly men, likely in their late 60s or 70s, smiling warmly at each other. The man on the left has grey hair and wears glasses, while the man on the right is bald. They are both dressed in dark suits and ties. The background is a plain, light-colored wall.

A photograph showing two men in dark suits seated at a white table. The man on the left is wearing a blue patterned tie and has a name tag pinned to his lapel. The man on the right is wearing a pinstripe suit and a patterned tie. On the table between them is a clear plastic bottle of water with a blue cap. To the right of the men, a bouquet of red roses and yellow lilies is visible. A small black microphone is positioned on the table near the man on the right.

論いただいた「原子力DM」の問題と、甘利大臣から冒頭に問題提起されたいた高レベル放射廃棄物処分場の問題が解決・不透明なことがキレス腱になっていて、そこで最後に甘利大臣ら、政府として廃棄物分問題への取り組み、意を伺いたい。

大いに性未満の問題を抱えています。この問題は、基幹電源として、その恵を享受しているのであるから逃げはいかないといつて全国民皆さん、もちろん日本だけではなくて世界中のなさに認識していく必要があります。世界では今、原子力先進国では最終処分場どんどん決まり始めているわけだ。

る  
らない、知りたくない  
と目をそむけていける  
恩況にはなく、国民一人  
ひとりが自分たちの問題  
ヘル廃棄物処分

民共通の課題」と  
して考え、行動していく  
だきたい。  
そこで、現状では  
最終処分事業は、原子  
発電環境整備機構（N  
M O）を中心に取り組  
でもらっているが、し  
し、処分候補地への公  
を得て文献調査をしよ

指摘を受けています。この行動をするか。今の話では、具体的にどういふことを含めて、広報活動を進めるべきかなどとしなければならないことは避けられない問題だ。まず、高レベルで射性廃棄物はもう既に生しているといふことを、しっかりと国民に理解してもらおうといふことが大事だ。

また、NUMOの公算も、十分に尊重した国にとどまらず、地域の意図に加えて、この自覚をもつて、広報活動を進めるべきかなどとしなければならないことは避けられない問題だ。まず、高レベルで射性廃棄物はもう既に生しているといふことを、しっかりと国民に理解してもらおうといふことが大事だ。

それ  
い  
う  
も  
話  
強化  
れば  
れ  
いこ  
りて  
ら最終処分施設の設  
構想の提示が必要だ  
う。そうした文献調  
府県を含めた当該地  
における広域的な地域  
地  
至る過程で、当該地  
けではなく、もつと  
い課  
な振興策というものに  
示することが必要だ  
う。今、国がどのよ  
う前面に出るべきか、こ  
出方について鋭意検  
てているところだ。  
が  
識  
発  
こと  
司会 本日は皆さ  
公募 誠に有意義な議論  
回を ただぎ、ありがとうございました。  
する

佃 今、甘利大臣からのお話のように、原子力のグローバル市場で、例えば、仏米ロに対抗して、日本が官民一体となって世界市場に打って出るといふスタンスではなく、世界中でコンセンサスが得られるような、「安全・安心」を一般の方々に提供できるよう皆が協力していくことが、今から大事なことだと思つてゐる。

Digitized by srujanika@gmail.com



# 官民一体で「安全」と「安心」を供給

「原子カルネサンス」の支えは日本  
体で「安全」と「安心」を供給

「國際標準」を勝ち取つてい  
携わる者としても、決し  
く」とが一番大事なボイ  
ントかと思いますが、い  
かがですか。

岡崎　これまでも、指  
摘があつたように、「原子  
力立国計画」によつてぶ  
れない、しつかりした原  
子力政策を打ち立ててい  
用化するためには、メー  
研究開発成果が確実に実  
証から実用段階に向か  
う、特に原子力のような  
巨大なシステム技術を実  
現するためには、メー  
の技術開発で中核メー  
カーとなつていただいま  
るものはない。ましてや、  
三菱重工が、米国のGと  
EP計画にいち早く提  
出して、それが今、採  
用されようとしていること  
おかげで、このFBI

日米仏の三か国の協力  
大事だと申し上げたが  
実は、あまり報道され  
いないものの、この分  
でもロシア、あるいは  
ンド、中国といった国  
もたいへん積極的にこ  
FBR開発に取り組ん  
いて、場合によつては

力にどうってたいへん大な役割を担うのだろうと思う。その中でも、メカニークーの皆さんにこの分野において積極的に貢献していくことがたいへん大事だということを一言追加させていただたい。

われにどうでもたいへん大事な視点だろうと困っている。私は、できれば年内に日米仏3か国の中での具体的な共同研究開発計画をぜひ打ち立てるといふと考えている。

原子力先進3か国で協して取り組むと同時に将来的にこの日本の

勝つてしまふのを忘れないで思つてゐる。

ルを含む自己完結型  
ルギーとして手中に有  
る手本を世界に示し  
くことではないかと  
れます。一言「メン  
ただけませんか。」